



Vol.169

令和6年度7月号

今年もバス・バスターーズ、活躍しました。

21年目のバス・バスターーズ

21年目のバス・バスターーズの活動が5月から6月にかけて実施されました。開催6回で合計136名の参加者がありました。参加いただきましたトヨタ自動車東日本(株)様、迫リコー(株)様、KDDI(株)東北総支社様、応用地質(株)様など各企業の皆様、筑館高校、岩ヶ崎高校の皆様や個人で参加いただきましたボランティアの皆様には改めまして御礼申し上げます。

今年はオオクチバスの産卵数が17カ所とここ数年増加傾向にありました。昨年の約1/3に抑制できました。特筆すべきは三角網で捕獲されたオオクチバス稚魚の個体数です。その数は3匹と過去最少となりました。

これらの結果は、バス・バスターーズをはじめとした駆除活動の成果としてオオクチバスの繁殖を抑制出来ているものと考えております。

一方、ゼニタナゴは9個体が確認され、設置しました定置網では、ライギョ、ナマズ、フナ類などの大型魚以外にも今年ふ化したモツゴやタモロコなどの稚魚が確認されています。このことから伊豆沼の魚介類は安定して生息できている状況であると考えております。

バス・バスターーズ活動への参加を通じて、胴長を着用しての伊豆沼内の調査や、いろいろな魚を間近で観察するなどの体験をしていただいていれば喜ばしい限りです。

来年度もバス・バスターーズ活動は継続していく予定です。ご協力よろしくお願いいたします。(企業名、高校名は順不同です)



伊豆沼の生態系の説明に耳を傾け、間近で魚を確認

人工産卵床の確認

モツゴなどの稚魚たち

時には鳥のさえずりに耳を傾け

ヒシを刈り取るロボットボートの開発

東京大学海津准教授とそのチームが開発中のロボットボートによるヒシの刈り試験が行われました。

現在の伊豆沼・内沼では、一昨年の豪雨によってハスが減少し、その代わりにヒシが大きく増加しています。ヒシが繁茂すると、水中の酸素が少くなり、魚が住みにくくなるなどの悪影響が出る恐れがあります。そのため、ヒシの量をコントロールする技術の確立が重要です。

試験を実施した6月上旬は、ヒシの生育初期にあたります。早い時期からヒシを刈り取ることで、効果的にヒシの生育量を抑制できるようになるかもしれません。



ヒシを刈り取るロボットボート

学校の体験活動が行われました



5/29古川黎明高等学校の皆さん



6/12金成小学校4年生の皆さん



6/20鶯沢小学校3年生の皆さん



6/21新田小学校3年生の皆さん

5月下旬から6月、古川黎明中学校・高等学校、金成小中学校、鶯沢小学校、新田小学校の皆さん、水生植物園や伊豆沼の水辺で環境学習に取り組みました。

児童・生徒の皆さん、ウェダーを着て池に入り水生生物の観察を行ったり、たも網を使っての水生昆虫の観察や、虫取り網でトンボなどを捕まえての昆虫観察、また、定置網に入った魚を陸の水槽に移して直接手で触れたりと、普段触れ合うことの少ない伊豆沼・内沼の自然を満喫していました。

伊豆沼・内沼生き物図鑑～オオキンケイギク～

初夏に道端でコスモスに似た黄色い花が咲いていれば、それはオオキンケイギクかもしれません。オオキンケイギクは北米原産の多年草で、人里の日当たりのよい場所を好む植物です。丈夫で花が美しいため、かつては法面の緑化などに使用されたりしていました。しかし、我が国に定着し数を増やした結果、在来の野草の生育場所を奪うなど、生態系に与える悪影響が目立つようになりました。

現在では特定外来生物に指定され、生きたままの運搬や栽培、譲渡などが原則禁止されています。

一度定着してしまったオオキンケイギクを駆除・根絶することは、困難を伴います。繁殖力が強く、耕作地や宅地において雑草化する危険もあります。これ以上増やさないようご注意下さい。



花の直径は5から7cm、草丈は50cm前後で、葉の両面にはあらい毛が生えることが多い。



葉は根元で3から5つに分かれていることが多い。



〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畠岡敷味17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217
ホームページ:<http://izunuma.org/>
E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp

